



ATACOM (ATAGO Competition)



DATA

- 主な連携先・メンバー
丹波市／関西大学佐治スタジオ／成松造り物保存会／愛宕祭実行委員会／中央地区自治振興会／成松ロイヤルクラブ／関西大学建築環境デザイン研究室
- 活動地域
兵庫県丹波市氷上町中央地区
- 活動期間
2010年～継続中
- 活動資金
関西大学・丹波市連携事業推進協議会事業費／成松造り物保存会事業費

活動の目的

- 1 地域行事である「愛宕祭」と「造り物」製作に学生が参加し、それらの可能性・魅力を発見し発信すること
- 2 伝統行事への参加を通じた地域環境のデザイン構築



連携にいたる経緯

2007年に青垣町佐治に関西大学佐治スタジオが開設される。2009年に氷上町成松で行った空き家活用について地元住民の方々と共に考える事業で、本学の学生の愛宕祭への参加が決定。関西大学と丹波市との共同事業として実現した。

活動内容

兵庫県丹波市氷上町中央地区で毎年8月に開催される「愛宕祭」に学生が参加し、約300年の歴史を持つ神様への奉納物「造り物」を学生の視点で捉え、コンペ形式で提案。最優秀作品を実際に祭りでつくり、まちに新しい風や元気を送りこもうというプロジェクトである。2010年以降毎年継続的に愛宕祭に参加する中で、地域にATACOMの活動が受け入れられてきている。現在では「造り物」に参加する以外にも、祭りのサイン計画やワークショップ、ウォークラリーの提案・企画を任されるようになり、祭りに訪れた人達に地域の良い所を再認識してもらえるよう取り組んでいる。また、愛宕祭での活動を通して地元住民と協働し、祭り以外の機会でも関わりが増したこと、地域全体の環境について学生が地元住民と一緒に提案できる関係になりつつある。

活動の成果

- 1 学生が地域行事の愛宕祭に住民と同じ立ち位置で参加できていること
- 2 学生が地域に入り込むことによる賑わいの創出と地域の魅力の再発見
- 3 継続的に地域と関わりを持つことで、学生の第二の故郷となっていること

今後の課題・目標

- 1 ATACOMの活動に対する地元住民の理解度を深める
- 2 現在の活動を継続していくための仕組みづくり
- 3 地域の空き家問題に対して年間を通して関わること

教員紹介



■ 環境都市工学部 教授

江川直樹
Naoki Egawa

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学大学院修士課程修了。77年株式会社建築研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

協働担当者紹介



■ 関西大学大学院修士2年

藤居省伍
Shougo Fujii

1996年滋賀県生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院在学。(建築環境デザイン研究室) 2014年からATACOMの活動を開始。現在は同プロジェクトのリーダーをはじめ、丹波市での研究活動を行っている。